

2025.12.18 (木)
第24回例会
(通算3833回)

会長 荒井 剛
副会長 池田 一己
幹事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ツ輪ビル 2F
TEL 0154-24-0860 FAX 0154-24-0411

2025-2026年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026年度
RI会長 フランチエスコ・アレッソ
第2500地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北RC)

本日のプログラム 「ロータリーカップアイスホッケー大会報告会」(青少年奉仕委員会)

次週例会 「新年交礼会」(親睦活動委員会)

- ロータリーソング：我らの生業 ■ソングリーダー：石井 孝行君
- 会員数 106名
- ビジター
- ゲスト 赤い羽根共同募金会長 卯月ひとみ様 // 藤倉 裕康様 釧路工業高校 教諭 土居功弥様

会長の時間 荒井 剛会長



会に多くのメンバーの方、家族の方にお越しいただきました、誠にありがとうございました。

さて、今日はロータリーカップ報告例会ということです。せっかくですので、アイスホッケーにちなんだ、アイスホッケーとロータリーということで調べてみたのです。野球の時も野球の大会主催したロータリークラブがどれぐらいあるのかなと調べたのですが、アイスホッケーも同じように調べてみたところ、国内に限ると釧路以外だったら青森とかの強豪チームで強いといわれている所、ホッケーが盛んな所でしかやっていないということです。なので、国内は少ないだろうと思って海外に目を向けると、カナダとかが少しホッケーに力を入れていて、いろいろ調べたところ面白い歴史というか、面白い記事を見つけましたので紹介したいと思います。

最終的にはホッケーとずれるかもしれません、それはご容赦ください。

カナダのサスカトゥーンという地方があるのですが、行ったことはないんですけど、中部、真ん中の真ん中あたりのサスカトゥーン地方の中のサスカトゥーン

皆さん、こんにちは。早いもので上半期の最後の例会になりました。まず上半期、大変お世話になりました。また、先週はクリスマス家族

ロータリークラブというのがあります。サスカトゥーンという地方に5つのクラブがあるのですが、最も古いクラブです。1917年に設立されていますので、日本のロータリークラブよりも前に設立されたクラブです。

このクラブの歴史の中で、どうアイスホッケーが関わっているのかという話なのですが、そのクラブの中に「私たちの歴史」というサイトがあるのですが、そこを見ると、こんな記述がありました。

1928年にキワニスというクラブからロータリークラブに対して、「ホッケーで試合をしよう」と挑戦状が叩きつけられたということがあります。何でこんな挑戦状が叩きつけられたのかというと、何年か前に、カナダやイギリスで有名なスポーツの「ローンボウルズ」というのがあるのです。私はなじみがないのですが、芝の上で転がしたりする対戦をして多分、キワニスが負けたと思うのですが、今度はホッケーでリベンジをしようということで、両者が戦ったというところがありました。

その年のホッケーの試合の中で、ベストな試合でしたという評価がされていて、その表現の中で、誰一人として怪我をすることなく終えたという書き方がされているので、普段、どれだけ激しい戦いをしているのだなと思いました。

ホッケーから外れてしまうとちらっと言ったかもしれません、その中で最終的に、さっきキワニスという話をしたと思います。キワニスって、私は正直わからなかったのですけど、「世界三大なんとか」と表現を

する事があります。例えば、世界三大夕日、釧路の夕日は三大夕日のひとつですね。その中に「世界三大奉仕団体」という言い方があるのですけど、皆さんもちろん、ひとつにロータリークラブがあります。皆さんが当然知っているライオンズクラブがあります。もうひとつが、キワニスなのです。世界三大奉仕団体のひとつと言われているのが、キワニスクラブなのです。私はあまり把握していなかったのですけど、このクラブも世界中あります。日本にもあります。ただ北海道には札幌しかないと思いますが、この歴史は実は、ロータリーが1905年に設立されていますので、その後の1915年にアメリカのデトロイトで設立された世界奉仕団体のひとつであるキワニス。その後にライオンズクラブが設立されているので、ライオンズよりも前に設立されています。

どういう目的の奉仕団体なのかというと、主に青少年、子どもたちに対する奉仕を目的とする世界奉仕団体がキワニスなのです。

私、勉強不足で知らなかったなと思って、マークが『K』のマークだったりするのですが、世界中に約85か国、6500クラブ、16万人のメンバーもいると言われています。先ほど申し上げたとおり、主に青少年とか子供向けの奉仕を重視している団体だと言われています。

カナダにあったキワニスクラブとロータリークラブがホッケーで戦ったというのが、先ほど申し上げたサスカトゥーンのクラブの歴史の1ページの中に出でてきただということでした。

その関係もありましたので、キワニスというのがどういう団体なのか。実は、世界三大奉仕団体のひとつとして言われているクラブなのですということ。もし存じの方でしたら申し訳ないのですが、私は勉強不足で知らなかつたもので、皆さんにご紹介させていただきました。

ホッケーの試合を通じて、奉仕団体は別ですけれども、奉仕の意思をもって、お互いそれぞれ交流をしあって、同じ目的を持って今でも交流を持っているという話があったので、それをロータリークラブに置きかえると、他のロータリークラブや、他の奉仕団体のライオンズクラブであったり、一定の奉仕事業を共同してやることも、交流を持つこともいいのではないかと思った、という話を会長挨拶としてさせていただけたらなと思いました。

今日の会長挨拶はこれで終わります。以上です。

幹事報告 横田 英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。第6回理事会の議事録が完成しましたので、ホワイトボードのほうに掲示しております。皆さん、確認をいただければと思います。

今日事務局の小野田さんが欠席されているのですけども、インフルエンザに罹ってしまいまして、明日まで事務局にいないということになりますので、何かありましたら幹事のほうまでよろしくお願ひいたします。また、事務局の年末年始の休業の連絡です。12月24日から小野田さんより有給の申請がありましたので、24日から1月6日火曜日まで事務局のほうが閉じておりますので、何かありましたら幹事・横田までよろしくお願ひいたします。以上となります。

赤い羽根共同募金贈呈式

感謝状贈呈

釧路ロータリークラブ会長・荒井剛様



貴会は国民助け合い共同募金運動の趣旨をよく理解され多額の净財を寄付し、釧路市の社会福祉事業の推進に寄与された功績は誠に顕著であります。よってここに深く感謝の意を表します。令和7年12月18日、釧路市共同募金委員会会長・卯月ひとみ ありがとうございました。

ご挨拶

釧路市共同募金委員会 卯月 ひとみ会長



皆さま、こんにちは。ただいまご紹介に与りました釧路市共同募金委員会会長・卯月ひとみでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

釧路ロータリークラブの皆さんにおかれましては、日ごろより赤い羽根共同募金運動をはじめ、社会福祉の発展向上のため、格別なるご配慮ご支援を賜りまして、心より厚くお礼を申し上げます。

また、この度は皆さまからの温かいご寄付を賜りまして重ねてお礼申し上げます。

共同募金会では、つながりを絶やさない社会づくりを全国共通テーマとし、これまで地域で築かれてきたつながりを維持するために、取り組まれる社会福祉活動や、近年複雑多様化する地域の課題の解決に向けて取り組まれる活動などへの助成を後押ししてまいります。

結びになりますが、歴史ある釧路ロータリークラブ様の今後益々のご発展と更なるご活躍をご祈念申し上げまして、甚だ措辞ではございますが、お礼のご挨拶と

させていただきます。皆さん、本日は誠にありがとうございました。

歳末助け合い募金への寄付

北海道新聞社釧路支社への贈呈

北海道新聞社釧路支社・三宅 康夫支社長のご挨拶



日ごろより道新社会福祉基金の活動にご理解ご協力を賜りまして、本当にありがとうございます。皆さまからいただいたこの大切なお金

は、きちんと大切に取り扱って、福祉向上のために役立てたいと思っております。来年以降もまた、ご寄付のほどよろしくお願ひできたらと思っております。本日は誠にありがとうございました。



NHK釧路放送局への贈呈

NHK釧路放送局・桑嶺 洋平局長のご挨拶



毎年、N H K 岁末助け合い海外助け合いのほうに、ロータリークラブの皆さんから温かいお気持ちを寄せいただきまして、本当にありがとうございます。

この寄せていただいた淨財は、福祉施設で暮らすお子さんとか、貧困とか、さまざまな事情で支えが必要な方々へのご支援のお金として使われていく形になります。

いま世の中いろいろ皆さまからのたくさんの支えというのはあるのですけれども、貧困をはじめ、支えが必要な方々というのは、どんどんどんどんまだ増えているのかなという実感もあります。引き続き、皆さまからの温かいお気持ちを寄せていただきますよう、今後もどうかよろしくお願ひいたします。本日は、ありがとうございました。



ご挨拶

小樽南ロータリークラブ

2025-2026 年度国際奉仕委員長 拝田 昇君



皆さん、こんにちは。小樽南ロータリークラブ所属、拜田昇と申します。クラブでは今期、国際奉仕委員長を仰せつかっております。

2510 地区では R L I 委員会と国際奉仕委員を仰せつかっております。

9月 26 日に中小企業家同友会の全道大会が釧路で開かれました。そちらに私、参加させていただきまして、分科会でたまたま隣になったのが石井さんでした。そこでロータリー話に花が咲きまして、よくよくお聞きますと曾我部支部長も残間実行委員長も石井さんも樋口さんも村上さんも釧路クラブだということで、これは何かのご縁だなと思って、今度、仕事で伺うときにメイクに伺いますということで、本日お邪魔することになりました。短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

■本日のプログラム ■

「ロータリーカップアイスホッケー大会報告会」

青少年奉仕委員会・岩田信一 委員長

皆さん、こんにちは。今日は釧路ロータリーカップの報告と、いま釧路でのアイスホッケー、高校生の現状をお話していただきます。



釧路工業高等学校の土居先生、よろしくお願ひいたします。

北海道釧路工業高等学校

アイスホッケー部監督・土居 功弥先生



皆さん、こんにちは。ただいま紹介に与りました釧路工業高校アイスホッケー部監督の土居と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

私は今大会も、実行委員長を務めさせていただきました。本日は釧路ロータリークラブ例会の中で貴重な

時間をいただきまして大会報告ができますことに感謝を申し上げます。

最初に今大会を簡単ではありますが動画にまとめましたのでご覧ください。

(動画の上映)

例年ですと、静止画のみで様子をまとめておりましたが、私が少しの合間で素人だったのですが動画を織り交ぜながら作成をしてみました。次年度以降もこのような場を設けていただいた際に、このクオリティを落とさずに皆さんに大会の様子をお届けできるのか心配になりましたが、昨日の夜まで作成しておりました。

今回で32回目を迎えることができました釧路ロータリーカップは、東北海道高校アイスホッケー大会という名が付いてから数えて9回目の開催となりました。今大会は地元釧路からは武修館高校、工業高校、江南高校、釧路湖陵高校と北陽高校の合同チームに加えまして、道南からは苫小牧東高校、北海高校、北海道栄高校、苫小牧工業高校、さらに道外からは、日光名峰高校の選手が主体となっております栃木県選抜、合わせて9チームの参加となりました。

スライドは、東北海道高校アイスホッケー大会と名前が付いてからの大会参加校の推移を表しています。だいたい8チームかな。昨年度は10チームの参加をいたしました。

今大会の開催にあたりまして、釧路ロータリークラブ会員の皆さまからの多大なるご理解とご支援を賜りまして、準備段階から大会終了まで、無事に終えることができましたことに深く感謝を申し上げます。

また、当日も開会式から試合観戦、それから閉会式までお忙しい中、多くの時間を割いていただいたことにも合わせてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

今大会は例年、参加いただいている十勝地区の白樺学園高校、それから清水高校は学校行事等が重なってしまい、参加の辞退となりましたが例年と同規模の選手・スタッフを含め約200名の参加となりました。

例年、インターハイ予選にもなっております全道大会の前ということもあり、かなり全道大会を意識して大会に臨んでくれるチームばかりだった印象です。中には少ない人数の中、大会期間2日間で複数試合を戦い、少しケガ人も出てしまうチームもあり、心配な部分も見られました。

前回の報告の場でもお話をさせていただきましたが、8月に苫小牧市で開催されている全国選抜大会よりも競技力がさらに向上し、よりレベルの高い試合が多く展開できており、今大会も特に有意義な大会になったと感じております。

これも会員の皆さまのご支援ご協力のおかげである

と思っております。本当にありがとうございます。

ここ2~3年の釧路ロータリーカップでは、大会に参加できる高校が毎年違うことや合同チームの編成によりチーム数が変わることもあり、試合の組み方、トーナメントの組み方など実行委員会を中心に試行錯誤を続けてきました。いかに選手のために、生徒のために少しでも実践の機会を増やすことができるか、をベースに実行委員会で話をして運営を進めてまいりました。

さきほど、ケガ人が出ているチームもあると話させていただきましたが、実は、今大会でアクシデントがもうひとつあります。釧路湖陵高校と北陽高校の連合チームのことでしたが、11月28日土曜日に行われた1試合目が午前中に試合があつたのですが、その後の午後にも試合が日控えている中ではあったのですが、体調不良者が合同チームの中で出てしまい、人数不足により試合が行える状況にありませんでした。

ですが、ここで試合をなくすのではなく、釧路工業高校が前の日の試合で、敗退していましたので、ウチから選手を派遣して、なんとか人数を確保して試合を成立させることができました。

通常の大会ではもちろん、このようなことはできないのですが、各チーム関係者、現オフィシャルを務めていただきました釧路アイスホッケー連盟の役員の皆さまのご協力があってこそ実現できたことだと思っております。

今後も大会の運営に際しては柔軟に対応し、選手の試合への出場機会を少しでも増やし、この貴重な全道大会の前に実戦経験を積んでもらうことで競技力のさらなる向上にもつながると考えております。

また、明後日、20日から23日にかけて、ここ釧路市で高体連の全道大会、インターハイ予選が開催されます。今、スライドにトーナメント表を載せましたが、全道13チームからインターハイに出場できるのは8チームということで、その出場権をかけて対戦をします。23日の決勝戦ではNHKの生中継もありますので、ぜひ注目して観戦いただけたら幸いです。ちなみに、釧路工業高校は20日土曜日の10時からユタカアイスアリーナで苫小牧工業高校と試合がありますので、ぜひご声援いただけたらと思っております。

大会の報告は最後になりますが、アイスホッケーをプレーする釧路、全道、全国の高校生のために今後も実行委員会が中心になって運営を続けてまいりたいと考えております。

次年度以降の開催につきましては、例年どおり11月下旬に開催をしたかったのですが、持ち回りのアイスホッケーの大会が釧路に来ることがあります、時期を少し早めて、夏の8月の全国選抜大会の前の7月下旬に開催ができたらと考えております。いろいろお話を聞くところによると、ロータリークラブさんも

いろいろ行事が重なっているということで、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、今大会に出場していただいたチームには事前にアンケートを取っておりまして、道南のチーム・苫小牧のチームからもぜひ参加したいという話もいただいております。

また今回、栃木県選抜のみが道外からの参加となりましたが、道外からも何チームか呼べるのであれば、呼んで開催して、そのまま8月の苫小牧の全国大会につなげていければと考えております。

今後も高校アイスホッケー界の発展のため、来年度もこの場でまたいいご報告ができるよう、各顧問の先生方や保護者、それから運営に携わっていただいている鉄路アイスホッケー連盟の方々にもご協力をいただきながら大会運営を行っていきたいと考えております。

次年度以降も引き続きご支援ご協力をよろしくお願ひ申し上げ、大会の報告とさせていただきます。

本日はこのような場を設けていただきまして、誠にありがとうございました。

(拍手)

青少年奉仕委員会の岩田さんからお話をいただきまして、大会の報告だけではなくて、鉄路のアイスホッケーの現状のことも話していただけないか、ということもありました。

僭越ではありますが、アイスホッケーの状況についてということで、私は高校の部活動に関わっている者ですから、関わる立場からの視点でお話させていただきます。

たくさん話をさせていただいたのですが、自己紹介していませんでした。すみませんでした。



12月9日で30歳になりました。鉄路市出身で、ずっと鉄路でアイスホッケーをしていました。ご存じの方はたぶん、鳥取中・鉄路

工業と言ったら王道コースかなと思っております。アイスホッケーは小学校1年生からプレーしております、昔は野球も一緒にやっていました。

現在、鉄路工業高校で保健体育の教諭として働いております。大学を卒業してから赴任して、今年で8年目となりました。正式に北海道教育委員会から採用されて今年で5年目になります。今年の3月に初めて担任を持ったクラスを卒業させることもできました。今年度は、少しは仕事も減るかなと思っていたのですが、1年生の学年主任ということで、また日々、多忙に送っております。

学校の先生と顧問という立場だけではなくて、実はレフリーもやっております。会員の皆さんもしかし

て、社会人の市内大会とかでお会いすることがあるかなと思います。

鉄路のアイスホッケーの現状と氷都鉄路のアイスホッケーの価値ということです。私の個人的な見解が多くあると思いますので、私が話したことがすべて鉄路の人全員が同じこと思っているとは限りませんのでご容赦いただければと思います。

鉄路とアイスホッケーは、単なる競技と地域という関係ではないと私は考えております。これは長年にわたり築かれてきた文化であり、人を育て、街を支えてきた存在であるからだと思っております。

ですが、近年、鉄路のアイスホッケーのとらえ方、感じ方というのが変化しているなと感じています。いくつかの視点に絞ってお話をさせていただきます。

氷都鉄路のアイスホッケーの価値ということで。

鉄路は全国にもまれなアイスホッケーが日常にある街だと思っております。リンクが生活圏にあり、市内のリンクも通年で稼働しておりますが、冬になると鉄路では当たり前の光景ではありますが、学校にリンクを作って、自然とスケートを履いて授業を受けたり練習をしたりしています。

鉄路で育ってきた私としても、また指導者という立場でも強く感じるのは、氷が身近にあるということです。これは技術とかの以前に環境が育てたものだと思っております。また、かつて鉄路にはトップリーグで戦うチームもあり、私もそうでしたが、実業団目指してとか、プロを目指してとか、というふうに具体的な目標を持って日々練習をしていました。これが鉄路のアイスホッケーの価値であると私は考えております。

また、指導の現場で感じるアイスホッケーの強みということで。

鉄路の強みはジュニアから、小さい時は小学校、さらには幼稚園から高校まで指導がしっかりしていると言いますが、ホッケーを教えてくれる方がたくさんいるのが強みだと思っております。小学生のころからリンクで練習をして、その前後で年上の先輩方の練習を見て学ぶとか、この縦の関係性とか、同じリンクでも先輩・後輩が関係なく練習をしたり試合をしたりと、技術以上に取り組み方というか、姿勢というか、考え方育まれるのではないかと思っております。

また、高校に入学してくる選手も、チームの中での自分の役割を理解していたり、厳しい練習に耐える力を持っていたり、一昔前よりは少なくなってはいるのですが、目的意識の高い選手も多い印象を持ちます。

高校アイスホッケーの現状ということで、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、高校のアイスホッケー界はとても厳しい環境にあります。まず、言えるのは、環境の部分もあるかなと考えております。限られたりんくの使用時間で、用具の価格高騰。

現在、高校生が使っているスティックは、1本4~5

万円。それが2回で折れたりすると、生徒がいつも「あっ」と言っているのですけど、客席にいるお父さんお母さんのほうが「あっ」となっている印象をよく試合でも目にします。また履いているスケートもいま定価ですと10万円を軽く超えてきまして、トップモデルですと17～18万円ととても価格も高くなっている印象があります。

それから、共働きの家庭も多いということで日々の送迎にもかなり苦労していて、経済的な負担も多いというのは、釧路に限らずアイスホッケーの課題であるかなと思います。

一番は、競技人口の減少かなと思っております。いまスライドに載せましたのは、東北海道高校アイスホッケー大会という名になってからの釧路管内のチームの部員数を表したものになります。

武修館高校はさておきまして、江南高校、工業高校、昔は釧路連合です。今年度は北陽高校と湖陵高校で合同チームを組んでいるのですが、第1回大会は東高校とか釧路高専高校も入っていて20人はいたのですが、ご覧のとおり大会を重ねるごとにだんだん少なくなっています。少子化というのもあるとは思いますが、確実に現場には影響を及ぼしていると感じております。

また、単独チームでチームを維持していくことが難しくなっており、何とか部員数確保につないでいきたいという思いで今日まで活動しております。一例ではあるのですが、釧路工業高校では部員数確保のためにということで、いろいろ僕もできる範囲ではあるのですが、取り組みということで、いくつかご紹介したいと思います。

今では小学生もご覧になっているのですが、インスタグラムを開設するまでも大変だったのですが、開設して普段の練習の様子とか大会の情報を発信して、少しでも工業高校のアイスホッケーを見てもらうような告知をしています。

また、このインスタグラムを使い、今年7月には中学生にも練習の参加募集も行いました。多い時には10名近くの中学生にも練習に参加していただきました。例年よりも興味を持っていただけたかなと思っております。また今後、中学生の卒業後の進路選択にも少しはつなげられたのではないかなど感じております。

SNSのページについては、釧路工業だけではなくて、一応フォロワーなどを比べるのもあれかなと思いまして消させていただいたのですが、江南高校や武修館高校、北陽高校はないのですが、湖陵高校はスケート部ということで、各学校それぞれページを開設して情報を発信しておりますので、ぜひロータリークラブの皆さんも例会終了後にスマートフォンでインスタグラムを開いていただいて、いろいろチェックしていただければなと思っております。

それから、高校アイスホッケーの現状ということで、合同チームの編成についてお話をさせていただきます。

現在、高体連で定められている合同チーム編成に関するガイドラインというものがあります。これは高体連の正式なホームページにも掲載されております。これによりますと、人数は原則10人以下、校数制限は3校とする。また、日本アイスホッケー連盟では競技規則を設けているのですが、大会参加可能人数最低6人と。アイスホッケーをご存じの方なら分かるかと思いますが、6人で戦うのは非常に厳しいと感じております。本校もプレイヤーが5人、コーチが2人の7名で活動しているのですが、市内の大会でも交代がないし、1ピリオド20分の試合を3回、60分のゲームを戦っているのですが、非常に厳しい戦いが続いております。

また、人数制限も合同チームはすごく厳しくて10人以下でということです。高校のカテゴリーでこれだけ激しいスポーツをこれだけの人数でやりなさいというのは、私個人としては非常に厳しいものかなと、時代に逆行しているといいますか、そういう印象も受けています。

実は、例外措置もあるのですが、部員が6人満たない部員不足があり、同地区の他の学校は最低人数を満たしている場合ということで、合同チームを組むことはできるのですが、釧路の現状でいいと、江南高校は10名以上いるので単独チームでやりなさいと高体連から言われております。釧路工業高校も6人以上いるので単独でやってくださいと言われています。釧路連合ですが、内訳で釧路湖陵高校が4名、北陽高校が2名の6名となっております。数字だけで見ると、釧路工業はものすごく伝統があり、インターハイも優勝するぐらい強かった時代もありました。私、個人としても、このユニフォームをなくしたくない思いは強いのですが、先ほど大会の報告の中でもお話しさせていただきましたが、選手ファーストという視点で考えると、少しどうなのかなという思いも正直なところではあります。仮に釧路工業と釧路連合が合体すると13人でまだ交代もできるし、プレーの精度もそこまで落ちないので、現実味があるかなと思って高体連に打診はしたのですが、特例は認められず今の形に至っています。

そもそもこの日本アイスホッケー連盟が定める参加最低人数というのは、数年前までは6名ではありませんでした。実は11名でチームを編成してくださいというルールがあったと思うのですが、どうしても10人しか作れないとか、9人しかいませんっていうチームを救うためにルールが緩和されたとお聞きしています。ですが、実情をふまえると、とても厳しいルールとなっているかなと思っています。

すみません、思ったより長く喋ってしまいました。まとめをということで、本当はもっと話したいこといっぱいあったのですが、すみません。短くなるかなと思ったのですが、思ったより長くなってしましました。

いろいろ話をさせていただいたのですが、選手ファーストという思いは、全く変わっていません。釧路のアイスホッケーのために高校からできることは何かというのも考えながら、競技人口も減っているという話をさせていただきましたが、高校だけではありません。中学校でもいま2チームしかなく、小学校でも5チームしかありません。何とか普及につなげられたらなと思っています。

指導者の視点からしても、勝つことだけではなくて、今後10年、20年後の釧路のアイスホッケーを見据えながら指導を続けていきたいと思っています。また、アイスホッケーを盛り上げて行けたらと思っております。情報発信も積極的に取り組んで、ホッケー離れを解消できるようにして行きたいと考えております。

最後、足早になってしまって、もう少しだくさんの話をしたかったのですが、私から大会の報告と高校の実情ということでお話をさせていただきました。

聞きづらいところもあったと思いますが、ご清聴、誠にありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 荒井 剛君 上半期大変お世話になっておりました。
- 青田 敏治君 来年8月 ニトリレディース決まりました。今年82才で80ストロークでエイジシュートしました。
- 栗林 延次君 クリスマスパーティーありがとうございました。孫たちも喜んでいました。ついでに私全日本剣道連より有功賞を頂戴いたしました。
- 栗林 定正君 来年8月最終週釧路カントリークラブにてニトリレディーストーナメントが開催されることが決まりました。皆様のお力添えの程宜しくお願い致します。
- 池田 一己君 本日までの上半期 本当にありがとうございました。
- 横田 英喜君 半年無事に終えました。ご協力ありがとうございました。
- 拝田 昇君 伝統の釧路ロータリークラブの例会に初めて参加させて頂き光栄です。
(小樽RC) にもかかわらずバナー忘れました。次回お持ちします。

今年度累計 325,420円